

常ならぬものは3つある。中先する条件を整える国は極めて世イランの詩人サアディーにより少ない。武漢ウイルスが流入すれば、売買を伴わぬ富、議論にて最大の感染国となったイラン欠けた学問、政治のない国家が、感染者数が約36万3千人、そうである（『薔薇園』第8章）。中東でコロナ禍を解決す

## 歴史の文差点

武蔵野大特任教授 山内昌之



クを開き集団礼拝をするなど、3密回避に反する密集性をしばらく維持したからだ。イラクの死者数が多く感染者数も4位と高いのは、ナジャフやカルバラなどシーア派の聖地が多く、イランとの往来を自由に続けている。020年のGDP予測は、イラ

## 中東の新たな日常実現には

たからだ。

るには、この3つが正常に回復されるべきなのだ。しかし、コロナ禍を克服する前提として、分裂や内戦が繰り返される中東の国家が一体性を回復し、新型感染症の根絶を優

だったのである。ある意味で大局的な柔軟性を発揮せずに、宗教的な原理性に固執した揚げ句に、国家的な戦略性を短期にせよ見失ったのである。その結果は、富にもおよび2020年のGDP予測は、イラ

イラン・サウジアラビア・トルコといった地域大国がコロナ禍について、議論を重ねた学問的分析から離れて、ある種の陰謀論を唱え他国の悪意だけを強調するのは遺憾である。しかし、いちばん悪質なものは、アルカイダやイスラム国（IS）のようなスンニ派過激派武装組織が、新型コロナウイルスは反イスラム迫害者たちへの懲罰であり、ムスリムにも罹患者がいるのは、信心が足りないからだと宣伝することだろう。そのうえ彼らは、欧米がコロナを「十字軍以来の悪夢」と理解している現在、機を逸せず

欧米を攻撃してセキュリティシステムを破壊するように呼びかけていることだ。ガザの「イスラム軍団」のように、感染症を敵攻撃の隊列を組織化するために神が与えてくれた贈り物とまで言うのは、決して許される行為ではない。

中東でコロナ禍を克服しニューノーマル（新たな日常）を実現するには、サアディーのひそみにならうなら、経済と市民生活のために適切に回る富、感染症を科学的に分析・撲滅する学問、民主的な議論を重ねて最適切な政治選択をする国家が不可欠なのである。

（やまうち まさゆき）